

ステップ！3・4・5

札幌市立白楊幼稚園 No.1 令和6年6月



研究実践園における保育実践研究について

札幌市立幼稚園は、研究実践園として幼児教育の今日的課題等をテーマに実践研究を行っています。研究を通して子どもにとって大切な経験～遊びを中心とした生活の中で自分らしさを発揮しながら、「やって、みたい！」という思いを実現する、友達との関わりを通しての育ち等の幼児期の学びを確かめたり考えたりしています。研究アドバイザーの先生による助言を研究に生かして、その成果をお便りやHP、地域公開保育等を通して発信してきたところです。



幼児教育センターホームページでは、研究実践園の取組をご紹介します。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/youjikyoku/yousenn/kennkyuu.html>



研究副主題

豊平区・清田区
多様な教育・保育環境
(長時間保育の実践)

白石区・厚別区
遊びを通した
幼児期の学び

西区・手稲区
特別支援教育

北区・東区
幼保小連携・接続

中央区・南区
家庭教育支援

5つのテーマの保育実践研究
札幌市の幼児教育を取り巻く状況、特徴、課題から

研究主題



質の高い幼児教育の実現に向けて
～つながる ひろがる
札幌市の幼児教育～



研究便りの発行



研究アドバイザーを講師
とした学習会



2区協働した研究



研究協力校との合同研修

令和6年度は、3カ年計画で取り組んできた研究主題「質の高い幼児教育の実現に向けて～つながるひろがる 札幌市の幼児教育～」のまとめの年となります。

札幌市の目指す質の高い幼児教育～幼児期にふさわしい生活の中で子どもがしてみたいことが叶い、その子らしさが発揮され、子どもが主体的に生活できる幼児教育～に向けて、子どもを取り巻く全ての人々がつながり、学びがつながり、子どもたちの未来へつながり、ひろがっていくことを願い保育実践研究に取り組みます。引き続き、地域の皆様へ保育実践の成果をお伝えしてくとともに、5つのテーマの3年間の実践をまとめ、成果物を配布していく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。





2区で協働して研究を推進しています

北区 白楊幼稚園

東区 ひがしなえぼ幼稚園

副主題：『幼保小連携・接続のよりよい推進のために』

重点『子どもの学びをつなげる』について

幼児期は遊びや生活を通して総合的に学び、小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていく必要があります。教科学習中心の小学校以降の教育活動では、**幼児期の教育と内容や進め方が大きく異なりますが**、子どもの発達や学びは連続しており、幼稚園から小学校への移行を**円滑に接続する必要があります**。そのため、幼保小互いの教師が『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）』『資質・能力の3つの柱』などを手掛かりに、それぞれの発達段階や教育内容、指導方法の違いや共通点について理解を深め、それぞれの指導方法を工夫し、**子どもの学びをつなげる**意識を深めることが必要であると考えます。



研究アドバイザーのご紹介

藤女子大学 人間生活学部 子ども教育学科

教授 大室 道夫 氏

【専門分野】生活科教育、総合的な学習教育



研究の内容と方法について

学びをつなぐ幼保小

小学校



授業や保育を参観し合ったり、研修を行ったりなど互いの教育についての理解を深めることが、学びをつなぐためには大切！

育てたい力を共有する・学びをつなぐ

保育所
認定こども園



②教師同士の
連携

教師同士の連携
授業参観・保育参観、
合同研修会・研究会参加

③児童と幼児の
交流

幼児と児童
運動会・学習発表会見学
1年生・5年生との交流
など

幼稚園



①幼児の育ちを
支える

事例検討

各年齢の目指す幼児像を切り口にした幼児の様々な活動の場面を通して、「資質・能力の3つの柱」「10の姿」で育ちを振り返ったり、今後の育ちを見通したり、育ってほしい姿につながる教師の援助を探り、深めていきます。

白楊幼稚園



育てたい力を共有する

幼児期に大切にしていることを教師、保育者が確認し合うことは大切！
幼児同士も刺激を受け合える。

研究通信1号と3月に発行予定の最終号は2園合同で、その他は、園ごとに発行します。北区・東区の両区の幼保小の皆さんに発信します。ぜひ、お読みください！

①幼児の育ちを
支える

エピソード(週案にて)

エピソード事例で「主体的・対話的で深い学び」の視点から幼児の姿を話し合い、学びが繋がっていく幼児の姿、教師の援助と環境の構成を探り、深めていきます。

ひがしなえぼ
幼稚園

